

スタジアム・アリーナ改革推進事業①先進事例形成

# (仮称)シーホースアリーナ

---

2021年3月

シーホース三河株式会社

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、シーホース三河株式会社が実施した令和2年度「スポーツ産業の成長促進事業（③スタジアム・アリーナ改革推進事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

# 1.事業のビジョン等

スタジアム・アリーナ  
ガイドブック及びガイドライン  
参照箇所

ガイドブック: I. スタジアム・アリーナ改革指針  
ガイドライン: 序章、第1章、第2章

## (1)事業の背景

本計画は、「民間・民設」による計画を基本線に、安城市の政策と連動し、地域のステークホルダー各位との協議を継続して行っている。アリーナ建設をきっかけとして、地域資産をシーホース三河がアリーナを触媒として「再構成」し、人々が生き生きと暮らすことができ新たな価値を発信する街として機能するために、行政や地域コミュニティ、地域企業との理解を深めアリーナによる新たな街づくりを推進したいと考えています。

上記の実現に向けて、本事業においては、官民連携による具体的施策の検討やアリーナ建設に向けた基本計画の策定、地域における機運醸成をより深化させること、本事業を通じて、シーホース三河を軸とした新たなまちづくりの事例を形成することで、他地域・案件でのベンチマークとなり、スポーツの成長産業化に寄与することを目指しています。

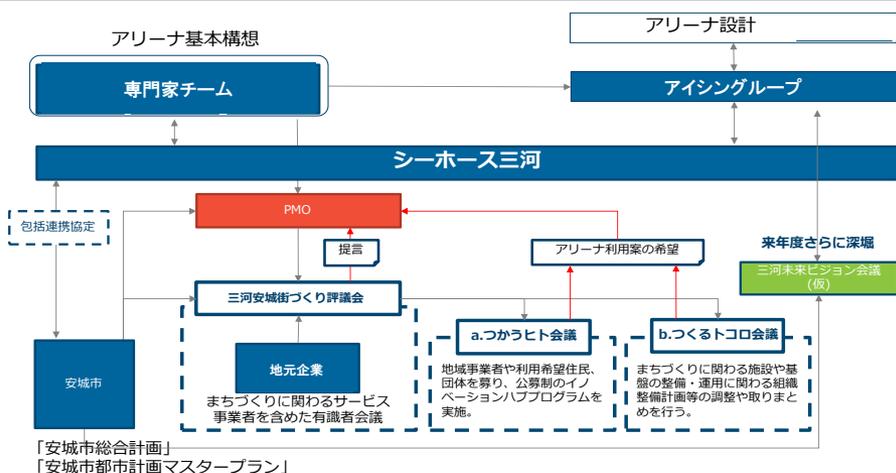
## (2)事業のビジョン

プロバスケットボールチーム「シーホース三河」のホームアリーナとして、Bリーグを牽引するチームにふさわしい設備を保有し、アイシングループの従業員及びその家族が気軽に使うことができ、そこで行われるイベントなどを通じてお互いを知り、グループの結束力強化に寄与する施設とする。

また、アリーナ建設地の地域住民にとっては、親しみやすく、緊急時には防災支援拠点として心強い存在となる。

上記を満足する施設となった結果として、“シーホース三河の集客力” “アイシングループの成長(従業員の増加)”、“施設への信頼の高まり”へとつながるので、『建設後の拡張性』を十分考慮する。

## (4)施設整備・運用時の関係者(ステークホルダー)



## (3)事業のコンセプト

### CONCEPT 1

#### 誰もが楽しめる夢のアリーナ

- B.Leagueのライセンス基準を満たしたアリーナ
- シーホース三河のホーム興行開催
- 顧客体験をもとにした笑顔溢れる興行
- スポーツ振興の拠点として
- 国際大会の開催

### CONCEPT 2

#### アイシングループのブランド力と結束強化

- グループ典典
- 講演会・研修
- 福利厚生イベント
- 全国ネットの広告塔
- SDGsの実践による国際的社会的貢献

### CONCEPT 3

#### 地域密着・地域貢献

- 近隣地区の街づくりと連携し、地域の核となる存在
- 地域住民の安全・安心につながる施設
- 防災/避難/緊急対応場所
- 社会福祉と地域の活性化
- 子ども食堂
- モノづくりの伝承と知育
- 引継技術者による技術伝承の主体とした「テックキッズ」の設置
- 学んだ技術を披露する大会の開催

### CONCEPT 4

#### コネクテッド・アリーナの実現

- スポーツとテクノロジーを介して人と地域が「つながる」アリーナの実現
- テクノロジーによりアフターコロナの社会に適したアリーナの具現化を目指す
- テクノロジーとスポーツの融合
- 産学連携の実践の拠点づくり



## 2.事業概要

スタジアム・アリーナ  
ガイドブック及びガイドライン  
参照箇所

ガイドブック: I. スタジアム・アリーナ改革指針  
ガイドライン: 序章、第1章、第2章

### (1)事業候補地

アリーナ名	シーホースアリーナ(仮称)
予定地	愛知県安城市内
開業時期	新型コロナウイルス感染症の影響を受けスケジュール調整中
客席規模	5,000席以上 ※B1クラブライセンス取得に必要な施設基準を満たす

### (2)規模及び機能概要

メインアリーナ	サブアリーナ
<ul style="list-style-type: none"> <li>●観客席数:5000席以上(将来拡張含む)</li> <li>●車両が進入できる</li> <li>●入場規模に応じて使用しない客席をクローズできる、選手の脚に負担がない床</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バスケットコート2面 (各種大会時の練習コート、ウォーミングアップ場として利用)</li> </ul>
コンコース	VIPルーム
<ul style="list-style-type: none"> <li>●1間×2間の臨時ブースが複数設置でき、並ぶ導線が確保できる余地があること</li> <li>●コンコース幅は最低12m</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パントリー、WC、手洗いが個室装備</li> <li>●専用導線、専用EV、専用車寄せ</li> <li>●セントラルキッチンから飲食物が運べる</li> <li>●20部屋程度</li> </ul>
会議室	クラブラウンジ
<ul style="list-style-type: none"> <li>●20名収納会議室:10部屋</li> <li>●複数の会議室を間仕切り変更し、部屋の大きさを変更できる(可動間仕切り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●席数:300人収容</li> <li>●ドリンクカウンター</li> <li>●大型TVが複数台設置</li> <li>●独自の音響設備、専用パントリー</li> </ul>

### (3)施設の利用用途・利用方法の想定

1. スポーツ興行等の利用
  - Bリーグ興行開催
  - 国際大会の誘致
  - その他スポーツ振興イベント
2. アイシングルーブ関連イベント
  - グループ式典
  - 講演会・研修
  - 各種イベント
  - 障がい者スポーツイベント
3. 地域活性化イベント
  - コンサート、市民スポーツ大会、バザー等
  - 防災、避難場所としての活動



## 2.事業概要

スタジアム・アリーナ  
ガイドブック及びガイドライン  
参照箇所

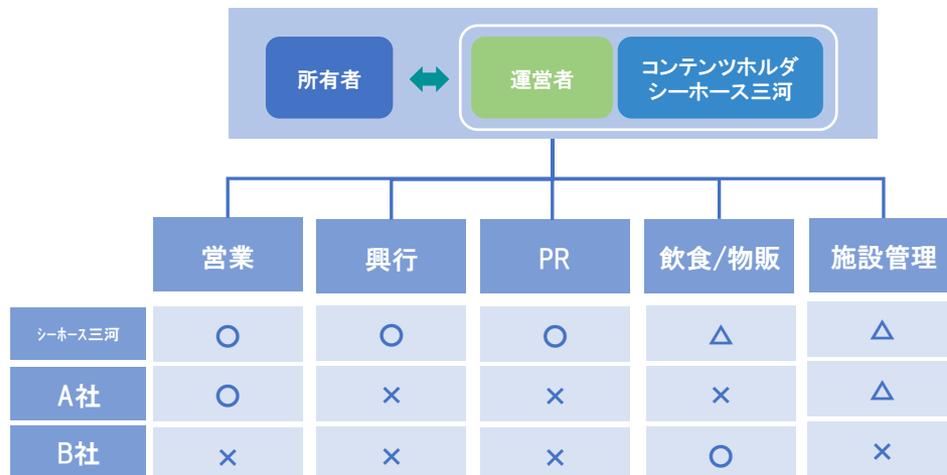
ガイドブック：Ⅲ. スタジアム・アリーナ整備に係る  
資金調達手法・民間資金活用プロセスガイド  
ガイドライン：第3章、第4章

### (4)想定する事業スキーム及び事業主体

前提として本事業はアイシングループによる民設・民営を基本軸としております。施設整備ならびに資金調達、運営につきましてもアイシングループおよび関連会社が主体となることを想定しており、具体的には右記スキームを検討しております。

アリーナ運営に関しては、チーム運営と重複する機能が多く、運営者をシーホース三河とすることで効率的な運営が可能であると考えています。

不足する機能はシーホース三河より別会社に委託する形式を想定しております。



### (5)事業のフェーズと事業スケジュール

	2021年	2022年	2023年	2024年
基本計画	→			
基本設計・実施設計				
用地整備/各種届出対応				
建設				
運用準備				

新型コロナウイルス感染症の影響を受け  
現在、スケジュールを再構築中です

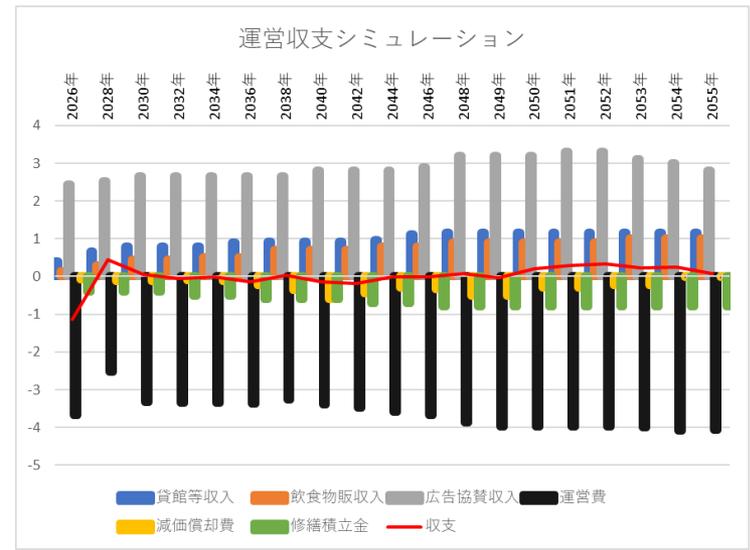
# 3.事業収支に関する検討

スタジアム・アリーナ  
ガイドブック及びガイドライン  
参照箇所

ガイドブック：Ⅲ. スタジアム・アリーナ整備に係る  
資金調達手法・民間資金活用プロセスガイド  
ガイドライン：第3章

## (1)収支前提の考え方

	前提となる項目	金額(億円)	根拠	
投 初 資 期	基本設計、用地整備	10.0	設計会社に委託し、試算	
	施設整備費	非公開	設計会社に委託し、試算	
収 入	利用料収入	0.48	利用料：120万円/日 入場者数：4,250人、収容率85%	
	飲食物販事業収入	0.37	グッズ販売：客単価750円 飲食販売：客単価650円	
	SHM練習・ユース利用	0.05	利用料：3万円/日 ※サブアリーナ 利用回数：325日/年	
	企業貸出収入	0.28	利用料：60万円/日 飲食販売：客単価 500円	
	市民利用収入	0.05	利用料：3万円/日 ※サブアリーナ 入場回数：160日/年	
	命名権・広告収入	2.44	参考事例等から試算	
	その他	0.15	駐車場、自販機 他	
	合計	3.82		
	費 用	水光熱費	0.80	参考事例から試算
		維持管理費	1.20	
管理・運営人件費		1.00		
保険料		0.02		
修繕積立金		0.80	参考事例から試算	
合計		3.82		



## (2)収支結果

・本シミュレーションでは、事業計画に基づき収支のバランスを検討するため、アリーナ単体で黒字化を目指すという考え方ではなく、ハードとソフトの一体経営により、アイシングループ全体で運営を効率化するとともに、トータルでの収益化を目指しております。

・費用負担の考え方についてもグループ内で所有と運営を分担することで、アリーナ事業はCFベースでバランスが取れる形を想定しております。

・なお、左記のアリーナ収支シミュレーションでは持続可能かつ実現可能な水準での試算を行っております。

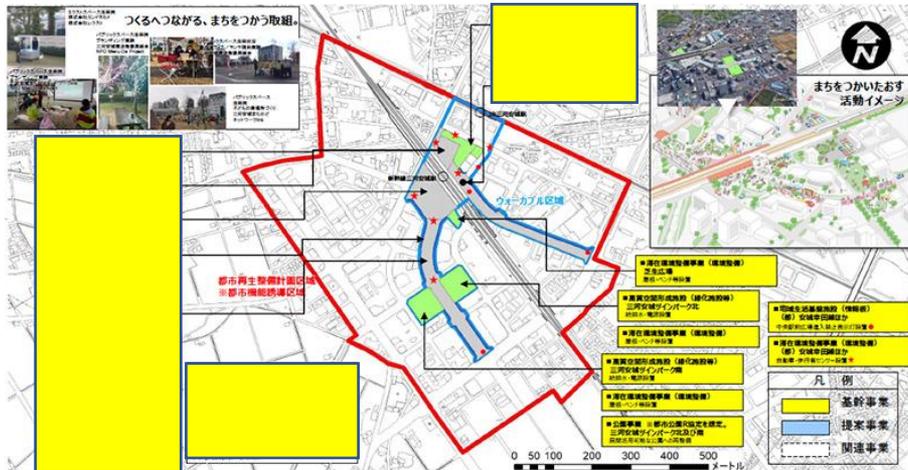
# 3.事業収支に関する検討

スタジアム・アリーナ  
ガイドブック及びガイドライン  
参照箇所

ガイドブック：Ⅲ. スタジアム・アリーナ整備に係る  
資金調達手法・民間資金活用プロセスガイド  
ガイドライン：第3章

## (3)収益増加や費用削減に資する具体策

- ・西三河は、モノづくりの盛んな地域の為各種メーカーが集約して立地する地域のため、中型集客施設が不足していることを鑑み、イベント興行によるアリーナ収益増ではなく、企業製品展示会や入社式等の場所としての利用提案を行うことで収益増を目指す。
- ・建設予定地周辺で増加しているオフィスワーカーを対象とした各種施策やイベント等のプロモーションによりアリーナでイベントがない場合にも収入が確保できることを目指す。(ランチ需要、帰宅時導線での飲食需要獲得など)また、アイシン精機等と連携したプレイスメイキング事業なども検討(実証実験も予定)。
- ・近郊に建設予定の商業施設と連携し、相互送客を計画。シャトルバスの供用やテナントの出張出店、シーホース三河関連イベント開催などを想定。
- ・建設予定地周辺の再開発計画とも連携し、地域密着イベントの場所としても活用していく。



安城市再開発計画より ※詳細内容は一部非公開

## つな木

日本全国の木材を用い

「ヒト」「場」「コト」をつなぎ

地域の活性化を支援します



地域の核となる仕掛け  
(安城市算出の間伐材を使用した地域イベント会場の整備)

## 4. 事業ホルダー関連実施事項

### (1) 実施実績

実施事項名称	つながるアリーナプロジェクト
目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・アリーナを中心としたまちづくりにおける事業ホルダーとシーホース三河の連携強化</li><li>・事業ホルダーによる新アリーナ活用を想定した実証実験等の検討</li></ul>



3/6(土),7(日)のBリーグシーホース三河ホームゲーム(@ウイングアリーナ刈谷)において、アイシングループとシーホース三河の共同企画を実施。それぞれのノウハウやリソースを持ち寄り、「飲食・グッズのモバイルオーダー」「モバイルシャトルバス事前予約」「モバイルイベント参加申込」など、モバイル端末を活用した試合観戦体験の向上を目的とした実証実験を行った。

### (2) 今後の進め方や課題等

#### 【今後の進め方】

今回実施したシステムの活用を継続しながら、精度を高めていく。また、本スキームをベースに、事業ホルダーとシーホース三河による「アリーナを中心としたまちづくり」に関する共同事業を事業目的の1つに育てる。

#### 【課題】

・実施施策の影響範囲をアリーナ内から、アリーナ周辺へ広げていくまでのプロセスを構築していくこと。

# 5. 官民連携協議会の開催及び関連調査

## (1)官民連携協議会及び関連調査

協議会名称	安城市・シーホース三河連携会議		
協議会の目標	アリーナ・アリーナ周辺プロジェクトを連携して進め、効果を最大化する		
回	日時	検討事項	意見、決定事項等
第1回	10/7	<ul style="list-style-type: none"><li>・連携協定について</li><li>・予定地の用途変更について</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・連携協定 既存連携協定をベースに本活動のための追加協定について。</li><li>・用途変更 新アリーナプロジェクトスケジュール確認とそれに伴った予定地の用途変更について情報交換。</li></ul>
第2回	1/26	<ul style="list-style-type: none"><li>・連携協定について</li><li>・予定地の用途変更について</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・追加連携協定のベース案決定</li><li>・用途変更に向けたスケジュール案決定</li></ul>

## (2)今後の進め方や課題等

### 【今後の進め方】

- ・建設、運営準備、用途変更などが絡み合う状況のため、想定スケジュールで進められるよう引き続き連携、情報提供を継続する
- ・建設開始に向けて、周辺住民との関係構築を連携して進めていく
- ・建設予定地周辺のまちづくりプロジェクトの中で、アリーナを軸の1つとしてもらうべく、情報共有と提案を続けていく。
- ・上記の目的のために、現在建設予定地周辺のまちづくりについて活動を開始している地元NPO法人の活動への参加を予定している。

### 【想定課題】

- ・建設予定地の周辺や近郊の環境が目まぐるしく変化している(オフィス・住宅・商業施設の増加など)中で、情報共有や新たに現れるであろうステークホルダーと素早く連携する体制を整える。

# 6. 官民連携協議会等の関連資料及び事業の効果

## (1)官民連携協議会等の参考情報等

### 【参加団体(一部)】

中部経済産業局  
安城市  
愛知学院大学  
アイシン精機  
アイシン開発  
日建設計  
三井物産フォーサイト  
キャッチネットワーク  
シーホース三河

【新アリーナ建設】 (仮称) 新アリーナ関係者会議		
AGENDA		
1.ご挨拶		シーホース三河株式会社 代表取締役社長鈴木秀臣
2.建設計画について	①建設の背景	シーホース三河株式会社
	②事業計画説明	シーホース三河株式会社
3.アリーナと街づくりについて	①街づくりのネットワーク	株式会社日建設計
	②B.LEAGUE × ローカル5G	株式会社キャッチネットワーク
4.周辺街づくりとの連携について	①三河安城駅周辺の まちづくり×アリーナ	安城市
	②学識者発表	愛知学院大学 内藤先生
5.質疑応答		
6.参加者提言		90分での開催予定。時間超過の 場合は内容調整

21/3/26 関係者会議アジェンダ

## (2)事業の効果

コロナ禍での対応となり、当初計画から大きく変更を迫られることとなったが、本事業を進めることによって、報告のような「勉強会」「実証実験」「連携協議会」を継続・実現することができた。

3月に実施した関係者会議では産学官からメンバーに参加いただき、これまでの各分科会議での見解・情報を集約することができた。それによって、今後のそれぞれの分科会はこれまで以上に広い視野をスタンダードに取り組むことができる。

また、変化する生活様式に合わせた基本計画のアップデートにも着手しており、それらを来年度進めていきたい。

# 7. 2020年度の状況

記載最終日:2021年3月29日

## (1)2020年度に計画している事項と進捗状況

		実施事項		
	事業内容	事業ホルダー勉強会	官民連携協議会	関係者協議会
4月	基本計画		・安城市打ち合わせ:4/27	
5月	基本計画		・安城市打ち合わせ:5/13	
6月	基本計画		・安城市打ち合わせ:6/10	
7月	基本計画	・まちづくり検討会:7/28 ・アイシン精機連携会議:7/31	・安城市打ち合わせ:7/7	
8月	基本計画	・アイシン精機連携会議:8/18,28 ・まちづくり検討会:8/25	・安城市打ち合わせ:8/3,28	
9月	基本計画	・まちづくり検討会:9/29		
10月	基本計画	・まちづくり検討会:10/26	・安城市打ち合わせ:10/7	
11月	基本計画	・アイシン精機連携会議:11/6,24 ・まちづくり検討会:11/24 ・「ぴあアリーナ」視察:11/27		
12月	基本計画	・アイシン精機連携会議:12/8,15,24 ・まちづくり検討会:12/23		
1月	基本計画	・沖縄アリーナ視察:1/13 ・アイシン精機連携会議:1/19 ・まちづくり検討会:1/26	・安城市打ち合わせ:1/26	
2月	基本計画	・アイシン精機連携会議:2/2		
3月	基本計画	・実証実験「つながるアリーナプロジェクト」:3/6-7		・関係者協議会:3/26